

令和5年度 学校経営方針

練馬区立大泉第三小学校
校長 風見由起夫

1 はじめに

○「学習指導要領」前文より

・・・これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。・・・

○「練馬区教育振興基本計画」～地域の絆で育む「心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子供」～より

・・・基本理念・教育施策を踏まえ、地域の学校として、「信頼」を得るよう学校経営・運営を教職員が連携し推し進める。・・・

2 めざす子ども像

教育目標

- よく考え、進んでやりぬく子
- 仲よく、力を合わせる子
- 健康で、明るい子

校訓

3本のいちょうの木のように
○やるき ○げんき ○こんき



3 めざす学校

(1) 大三小の子どもたちが生き生きと全力で学習・活動できる学校にする。

□「問題、ねらい、見通し、自力解決、検討、まとめ、適用」の段階をはっきりさせた授業により、自ら考え自ら学ぶ学習、互いに学び合う学習を行っている。

□様々な学校行事に、学年の発達段階に応じためあてをもたせ、子ども自身が役割を自覚し取り組んでいる。

□児童自らが健康に関心を持ち、自己の課題を把握しながら体力の向上を図っている。

(2) 大三小が学びの場にふさわしい教育環境の整った学校にする。

□全教職員で学年・学級に関係なく全児童を指導している。

※ 学年内の教科交換等を積極的に行って構わない

□計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (See)、改善 (Action) を日常化している。 ※ あわせて、勤務時間を削減している

□ICT機器の環境、デジタル教科書を整備し、考えを深めるための手段として活用している。

□算数では習熟度別少人数指導、他の教科についても、個に応じた指導を徹底している。

□問題行動等に迅速かつ、組織的に対応している。 → 一人で抱え込まない、抱え込ませない、独断させない。

(3) 家庭・地域に理解され、協力を得て信頼される学校にする。

- 教育活動をいつでも公開している。
- 教育方針や学校の取り組みを積極的に伝えている。(学校だより、学校ホームページ、廊下掲示、教室掲示)
- 内部(教師・保護者・児童)及び外部の評価(意見)をもとに学校改革を推進している。
- 家庭・地域と協力・連携し、安全対策に取り組んでいる。
- P T A行事、地域行事などに積極的に参加している。

(4) 職員が互いに高めあい、協働する学校にする。

- 学校・学級を開き、いつでも誰にでも授業を公開している。
- 実践を通して謙虚に学び合い、厳しく切磋琢磨している。
- 校内研究で学んだことや教育会(区教研)、研修センターで学んだことを実践にいかそうとしている。
- 教育活動充実のために、それぞれの職域(役割)に力を尽くしている。

(5) 児童、教職員、保護者、地域が誇りにできる学校にする。

- 「あいさつ」のかようことが連携になる。
- 地域とともに歩んできた大泉第三小学校の校風を大切にしてい^く。 ※ 令和6年度 開校80周年

4 中期経営目標

○主体的、対話的で深い学びの具現化

目標：学力調査の結果の引き上げ

- ・学習規律の定着
- ・タブレットを活用した学習活動の充実
- ・思考ツールの活用
- ・少人数指導、個に応じた指導の推進
- ・効果的な朝学習の実施
- ・家庭学習の実施と定着(啓発)
- ・放課後の補習の実施(随時)

○自己有用感の育成 と 地域・社会貢献意識の醸成

目標：各種調査結果に見られる自己肯定感、自己有用感の数値をあげる

- ・児童の地域活動への積極的参加
- ・高齢者者施設の訪問交流
- ・小中一貫教育の推進
- ・幼稚園、保育園との交流活動

○健やかな体の育成

目標：体力テスト各種目において平均値以上をめざす

- ・体育行事、体育的活動の充実
- ・教員研修の充実

5 今年度の達成目標と具体的方策

	目 標	方 策
学 習 活 動	基礎・基本の定着 (知識・技能の習得)	<p>○学習規律の確立と徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学びの姿勢を定着させる。 ・学習環境の充実 (ICT 機器の活用、教室掲示の工夫) を図る。 ・ノートの使い方 (めあて まとめ ふりかえり) を定着させる。 <p>○家庭学習 (学年×10分) の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた学習課題を提供し、児童に家庭学習の習慣化をせまる。 ・保護者への情報発信を行い、家庭学習を定着させていく。
	課題解決能力の育成 (思考力・判断力・表現力等の育成)	<p>○主体的・対話的で深い学びを意識した学習活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の年間指導計画・評価計画に基づき、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用を図る。 ・「追究」まで広げる授業を実現するとともに「考えさせる授業」を大切にする。 ・見通しをもたせるために1時間の授業の流れを板書するなど、指導者の発問・指示・説明を精選した授業を展開する。 (授業時間45分の厳守) <p>○タブレットPC、デジタル教科書の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ツールとしてタブレットを活用する。 → 活用のノウハウを校内で共有化 ・デジタル教科書 (教師用: 国語・社会・算数・理科 学習者用: 外国語) やデジタル教材を活用する。 <p>○算数少人数指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを実感させながら、「学習意欲」を高め、学習内容が分からない子「ゼロ」を目指す。
	多様な教育活動の実施	<p>○地域人材との交流、地域施設の活用 (見学や体験的な活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー、施設見学、施設訪問、農業体験等を学年に応じて積極的に展開する。 ・学校支援コーディネーターや外部機関と連携 (学校地域連携事業の活用) する。
生 活 指 導 ・ 進 路 指 導	規範意識の確立	<p>○基本的生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のルールについて、丁寧な指導を行う。集団指導と個に応じて見届ける指導にメリハリをつけながら指導を徹底する。 <p> <input type="checkbox"/> あいさつの励行 <input type="checkbox"/> 履物をそろえる (靴箱かかと整え) <input type="checkbox"/> 廊下歩行 (右側通行) <input type="checkbox"/> 遅刻防止、時刻の厳守と5分前行動 <input type="checkbox"/> 呼名と返事「はい」 </p>
	道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成	<p>○「特別の教科 道徳」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座、研修会を実施して、教員は道徳授業の改善と指導力の向上を図る。 ・保護者、地域には、引き続き「特別の教科 道徳」についての理解啓発を図る。
	自尊感情や自己肯定感の醸成	<p>○縦割り班活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた役割を担わせ、自己有用感を高めていく。 <p>○好ましい人間関係の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分も他者も大切にする行動」や「地域に貢献する行動」の基礎を養うため、地域の方々との交流活動をすすめる。

	いじめ、不登校、問題行動、人権侵害などへの早期対応体制の確立	<p>○外部機関も含めた組織的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 偏見や差別をなくし、互いの違いや異なりを認め、良さを認め合う人権教育を充実させる。 <p>「自分も他者も大切にする」 「いじめは絶対に許さない」</p> <p>「いじめを見て見ぬふりはしない」 「いじめを受けている子を絶対に守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けが・事故及びトラブルが発生したときには、報連相と事実関係を保護者に速やかに連絡 ・ 1に「相談」、2に「連絡」、3に「報告」の徹底（4に「記録」） <p>（留意） その日にできることを最大限行う（寝かさない、金曜日は特に注意）</p> <p>正確で公正な実態把握、短期的・中期的な対応</p> <p>教職員間の共通理解と組織的な対応及び保護者・関係機関との連携</p> <p>○不登校児童への対応を強化【欠席者〇へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ステップアップタイムの充実（東京都の別室登校校内別室支援事業の活用） ・ スクールカウンセラー、心のふれあい相談員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、担任等のカウンセリング機能を充実させる。 → 5年全員面接：SC 3年全員面接：心のふれあい相談員 ・ SSW、子ども家庭支援センター、教育相談室、児童相談所、適応指導教室等との連携を強化する。
学校運営	特別支援教育の充実	<p>○いちょう学級の教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人に応じた学習指導、児童の実態を考慮し、交流や共同学習をすすめる。 ・ 教育活動全体を通じて、自立活動の指導を充実していく。 ・ 体験的・問題解決的な学習、自主的・自発的な学習を展開していく。 <p>○いずみルームの指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導の成果と課題を明確にし、拠点校の役割を着実に担っていく。 ・ 本校・巡回校の教職員、保護者への情報発信に努め、特別支援教室の役割を明確にしていく。 <p>○困難を抱えている児童への指導の充実（個別最適化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実践していくとともに、個に応じた指導の工夫を図る。 ・ 教職員がそれぞれの専門性をいかしながら連携し、協力して児童の支援、指導にかかわる。
	外部機関との連携	<p>○幼保小との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童、園児の交流活動を実施する。 <p>○小中一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大泉第四小学校、大泉西小学校、大泉西中学校と連携し、相互に授業参観を実施する。（今年度は大泉第三小学校が公開授業実施） ・ 特別支援学級の教育活動等の情報を共有、充実を図る。（特別支援学級小中ブロック協議会）
	ライフワークバランス ※目標値 超過勤務	<p>○教育活動、校務等の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務等のマニュアル化を図り、無駄を省き、着実に校務を進められるようにする。 ・ 学校閉庁日（5日）の設定、夜間電話対応など、働きやすい環境を整えていく。

	月 4 5 時間以内 (毎日 20 時前に退勤) 年 360 時間以内	○サービス事故防止研修、ミニ研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年 3 回、長期休業前にサービス事故防止研修を実施する。また、適宜ミニ研修を実施する。 ・会計事故防止にむけた監査体制を確立する。 ・指導要録作業日の設定、定期的なチェック、個人文書の整理、机上整理等を通して、個人情報等の管理を徹底する。
特別活動・その他	自主的、自律的な力の育成	○特別活動（学級活動、児童会活動、学校行事等）の充実・・・「一緒にやって、子供に任せて、ほめる」 <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた学級活動を実施するとともに、児童の考え、意見を大切に活動した活動を心がける。 ・児童一人一人に役割を意識させる指導をする。 ・キャリアパスポートを活用し、児童が自分の成長を実感できるようにする。
	健やかな体の育成	○体力テストの分析と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト実施後、本校児童の傾向を知るために結果の分析を行い、分析結果を体育にいかしていく。 ○ジョギングタイム等の取組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業と関連を図って取組ませる。取組み期間後も児童が続けて運動できる環境を整える。
	読書習慣の定着	○読書環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館職員と連携し積極的な学校図書館の活用を図る。 ・読書旬間を設定する。また、団体貸出しの積極的に利用を進める。
	日本の伝統文化に親しむ心の醸成	○伝統文化や伝統行事等の体験的活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた体験的な活動を積極的に実践する。 ・端午の節句、七夕、お月見、ひな祭り等、日本の年中行事に合わせた環境をつくる
	共生と地域・社会貢献意識の醸成	○地域人材、地域資源の学習への活用と児童の役割意識の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援コーディネーターと連携し、学年、教科に応じて、ゲストティーチャー等を招き、学習内容を深める。 ・地域の店舗、施設等の訪問、見学活動を積極的に行う。 ・地域への働きかけを充実させる。(児童の役割、地域貢献の意識を高める)
能力開発 (OJT、研修・研究、自己啓発)	授業力の向上	○校内研究、校内研修の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を「数学的な見方・考え方を育む指導法の研究 ～個に応じた指導の工夫～」として、事前検討会、研究授業、協議会を実施する。 ・ICT機器、水泳指導、給食指導等、校内研修を随時設定し実施する。 ○教員相互の授業参観の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・年次研修の参観授業、自己申告に関連する授業参観等を活用して、教員が相互に授業参観できるようにする。 ○ICT機器を活用した学習活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器（大型テレビ 書画カメラ）を活用し、指導内容・方法・体制の工夫を図る。 ・デジタル教科書（国語、社会、算数、理科、地図帳）、デジタルコンテンツを活用する。 ・タブレットPCの活用に向けた研修会を実施する。

